

共に学び共に育つ

～子どもたちの笑顔が増える関わりを目指して～

■安心から自信へ

新学期、教室が1階から2階に変わり、階段が怖くて教室までなかなかスムーズに行けない子どもがいました。階段を上り下りするときは、いつも片方の手は手すりにつかまり、もう片方の手は私や友達、支援員さんの誰かとつないでいました。その子どもが、ある日、突然「ここから1人で降りてみる!」と言って私の手を放し、残り5段目くらいから1人で降りることができました。それが自信となり、1人で上り下りできる段数がだんだん増えていきました。そして、1か月後には、「1人で大丈夫だよ!」と言って、手をつながなくても1人で階段の上り下りができるようになりました。子どもは、ちょっとした配慮やサポートをすることで、できることがどんどん増えることを改めて実感した出来事でした。

浦幌町立
浦幌小学校

教諭
阿部 幸代

ることで、自信を付けていきます。子どもたちの笑顔がたくさん見られるように、私自身も柔軟で多様な見方や考え方をもって、子どもたちと接するように日々心掛けています。

■1つのチームとして

私が大切にしていることは、学校と保護者・行政・福祉・医療との連携です。これらが、1つのチーム

となって役割を分担し、子どもや保護者をサポートする体制づくりが必要だと考えています。

本校では、こども園や中学校と連携を図り、子どもや保護者が安心して小学校や中学校に入学できるように、年長児や第6学年の子どもたち、その保護者を対象に、入学前に見学・説明会を行っています。

また、子育て支援センターとの連携では、通所している子どものモニタリングを通常学級担任・特別支援

学級担任・センター職員が一緒に行ったり、保護者・特別支援学級担任・センター職員でケア会議を行ったりしながら、子どもに関わる人たちみんなで情報を共有し、共通理解を図っています。

これからも、子どもや保護者の願いを実現するために必要なことは何か、誰がどんな役割を担うのかを考えながら、特別支援教育に携わっていきたいと思います。

■一緒に考える

子どもたちが、不安や自信のなさから消極的になっているときは、「こうしたらできそうじゃない?」「こんな方法もあるよ!」といくつかの方法を提案し、どの方法ならできそうかを一緒に考えるようにしています。そうすると、子どもたちはその中から自分にできそうな方法を選んで、チャレンジするようになります。そして、成功体験を積み重ね

